

[7] 小林市小体連

I 年間事業

回	期 日	時 間	会 名	内 容	会 場
1	5月7日(火)	15:30~16:30	理事会	本年度役員選出・事業計画	栗須小
2	8月30日(金)	14:30~16:30	理事会	陸上大会計画案検討 研究経過報告	栗須小
3	10月24日(木)	13:30~16:30	理事会	陸上大会前日準備	南小 運動公園
4	10月25日(金)	8:30~16:30	大会	小体連陸上大会・片付け	運動公園
5	12月6日(金)	15:00~16:30	理事会	陸上大会反省	栗須小
6	2月7日(木)	15:00~16:30	理事会	年間反省・次年度に向けて	栗須小

II 事業部のあゆみ

1 陸上大会

- (1) 大会名 令和元年度小林市小学校体育連盟第60回陸上大会  
 (2) 実施日 令和元年10月25日(金)  
 (3) 会 場 小林総合運動公園陸上競技場  
 (4) 出場者 小林市内小学校(12校) 6年生  
 (5) 実施種目 一般種目 100m走、50mハードル走

※ 一般種目は、100m走か50mハードル走のどちらかを選択して出場することを基本とするが、試行期間につき、学校の判断を尊重する。(従来どおりの「両方エントリー」も認める。)

選抜種目 100m走、50mハードル走  
 長距離走(男子1000m・女子800m)  
 ソフトボール投げ、走り幅跳び、学校対抗リレー

- (6) 競技方法
- ・ 競技は全てタイムレースとする。
  - ・ 選抜種目については、一人一種目までとする。ただし、800m、1000m、学校対抗リレーは除く。小規模校については配慮をする。
  - ・ その他細部については、小林市小学校体育連盟による競技規則を適用する。

- (7) 日 程 開会式 9:40~10:00  
 競 技 10:20~14:20 閉会式 14:30~14:45

	種 目		種 目
1	男子50mハードル	7	女子100m
2	男子走り幅跳び	8	女子走り幅跳び
3	女子50mハードル	9	男子100m
4	女子ソフトボール投げ	10	男子ソフトボール投げ
5	男子1000m	11	学校対抗4×100mリレー
6	女子800m		

- (8) 表 彰 各個人種目・リレー種目共に8位までを入賞とする。  
 一般種目1位の児童に記録証を渡す(標準記録突破者については別途)。

## (9) 反省

	成果(○)及び課題(●)	改善策(◎)
1 ねらい 運営全般	○ 子ども達の体力向上につながる大会となり、とてもよかった。 ● 実施計画案の検討をもう少し早めに行い、各学校への大会要項の発送を9月中旬までには行ってほしい。	◎ 理事会の開催を早め、大会要項の発送を9月中旬までに行う。
2 プログラム 編成	○ ハードル走を午前にまとめたのはとてもよかった。 ● 選抜種目に出場する児童が、一般走に出る場合、休憩なく次の種目へ出場していた。	◎ 選抜選手が一般走に出場する場合は、早めの組で出場できるように調整する。
3 開閉会式	○ 整然と簡潔に行われよかった。 ● 入場行進は省略してよいのではないかと思う。	◎ 入場行進については、来年度から省略する。開会式の隊形に並んで始める。
4 競技	○ 選手全員が精一杯競技する姿に感動した。 ● フライングしたのに、そのままゴールしたケースがあった。 ● 走の競技に比べて、跳・投の種目が注目されていなかった。	◎ フライング基準を明確にすることと、フライングした際の対処法の確認をする。 ◎ アナウンスの工夫をする。応援席を別に設置する。
5 係役員の人数・係の仕事の内容や連携	○ 陸協の方に入っていたので、スムーズに進めることができた。 ● 出発をどのタイミングでやってよいのか分からない場面があった。 ● 一般から選抜選手に切り替わるところが分かりにくかった。	◎ 各役員が赤白旗で準備を明確にしてからスタートするようにする。 ◎ 放送を入れて分かりやすくする。
6 会場設営	● 集合場所が分かりにくかった。	◎ 各学校の表札をもっと分かりやすく貼るようにする。また、選手の集合場所に「集合場所」と書いた札を設置する。
7 成績向上のために	● 走り幅跳びで、踏切が合わず、30cm以上もロスしている児童がいた。	◎ 練習のときから、助走距離をしっかりと把握させるようにする。
8 その他	● 救護用の医薬品がほとんど期限切れだった。	◎ 救護を担当する学校の養護教諭が持参するようにする。また、必要があれば購入するようにする。

### Ⅲ 研究部のあゆみ

#### 1 研究主題

生涯にわたり仲間とともに主体的に運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育学習の在り方  
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

#### 2 主題設定の理由

現在、私たちを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い子どもたちの生活環境も変化し続けている。テレビ、携帯型ゲーム等、現代の子どもたちは身体を動かさなくても楽しみを得るための手段をたくさんもっている。また、生活が便利になることで身体を動かさなくてもよい状況も増えている。さらに子どもたちの運動不足の直接的な原因として、安心して遊ぶことのできる「時間・空間・仲間」の減少も深刻な問題として挙げられる。子どもたちの中にはスポーツ少年団に入って運動をしている子どももいるが、運動をしても一部の運動技能の向上に限られてしまう状況も見られる。このように様々な問題を抱えながら現在の子どもの体力は低下しており、体育科学学習において運動に親しむ資質や能力の基礎を育てていくことは重要な課題である。また、習得した知識や技能を活用して課題を解決したり、学習したことを相手に分かりやすく伝えたりする力も不十分であるため、昨年度の研究内容に表現力を高める工夫を視点として加え、本主題を設定した。

#### 3 研究の目標

児童の運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるために、学習過程や表現力を高める工夫をしながら、各領域において主体的・対話的な学びを意識した体育科学学習指導の在り方を究明する。

#### 4 研究の仮説

学習過程の工夫をしながら、各領域において主体的・対話的な学びを意識した学習活動を展開することで、児童が自ら進んで運動の行い方や練習の仕方を学習し、運動に親しむ資質や能力の基礎を育て、表現力を高めることができるであろう。

#### 5 研究の内容

市内各小学校において学習過程や表現力を高める工夫をしながら、主体的・対話的な学びを意識した学習活動の実践を行う。

#### 6 研究の実際

##### (1) 運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる学習過程の工夫

学習過程の工夫においては、導入時に単元計画を明確に示すことで、児童に目標をもたせるという工夫や動きになれるために段階的な指導で指導をするという工夫が挙げられた。



【場の工夫の例】

### 【各学校での実践例】

- 目標の明確化 ○ 教具・場の工夫
- 学習カードの活用 ○ 段階的な指導
- 単元の見通しをもたせる

#### (2) 表現力を高めることができる学習過程の工夫

表現力を高めることができる学習過程の工夫については、ペアやグループによる交流を取り入れた実践が多かった。その際、ポイントを示したワークシートを活用したり、互いに励まし合ったりする言葉かけをさせていた。これらの工夫により、児童が意欲的・対話的に学習することができ、表現力を高めることに繋がったと考えられる。



【グループでの話し合いの様子】

### 【各学校での実践例】

- ペア・グループ活動 ○ ワークシート
- 発表の場の設定 ○ 話し合いの視点の明確化
- 作戦や振り返りの時間の設定

#### (3) 体力の向上を図るための体育科学習を含めた教育活動の在り方

体力の向上を図るために、ICT機器を用いてお手本となる動画を見せたり、児童の様子を撮影して改善点を考えさせたりするという実践が見られた。また、体力テストの結果から課題となっている項目について、準備運動や朝の時間等を使って意識的に運動させている例も多く挙げた。さらに、委員会活動と連携して、児童に外遊びを奨励するポスターを作らせるという取組もあった。



【ICTを活用している例】

### 【各学校での実践例】

- 主運動につながる準備運動
- 学級または全校で取り組める運動
- 家庭への呼びかけ ○ ICTの活用

## 7 研究の成果と課題

### (1) 成果

- 学習過程を工夫しながら運動に親しませたり表現力を高めたりする授業の工夫に取り組むことで多くの実践例を集めることができた。また、これらの実践は児童一人ひとりの意欲的な活動にもつながると考えられる。

### (2) 課題

- 今後は、小林市全体で共通実践できるように、教育課程の工夫や運動事例について小林市小体連を中心に情報を共有できるようにしていく必要がある。